

令和4年度予算編成方針

【基本的事項】

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない状況においても、世界経済は再び前に向かって動き出している。単なる景気回復に留まらず、カーボンニュートラルの実現に向けた動き、デジタル化やデータ活用の急速な進展、国際的な取引関係や国際秩序の新たな動きなど、世界全体の経済構造や競争環境に大きな影響を与える変化がダイナミックに生じている。

政府は、今後とも、感染拡大防止に全力を尽くし、機動的なマクロ経済運営によって事業や雇用、国民生活を支えながら、医療提供体制の強化やワクチン接種を促進し新型コロナウイルス感染症を乗り越えて、更なる需要や成長に向けた投資意欲を呼び起こし、その上で、世界経済が回復していることを踏まえ、デフレに決して戻さないとの強い決意の下、外需を取り込みながらあらゆる政策を総動員して経済回復を確実なものとしていくこととしている。

本市においても、新型コロナウイルス感染症への対応に全庁一丸となって取り組むと同時に、地域経済を守るため、このまちにあるすべての資源を生かし、「釧路市まちづくり基本構想」に掲げる目指すべきまちづくりの実現に向けた取り組みを進めるとともに、人口減少に立ち向かうため、令和元年度に策定した「第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく各種施策に取り組んでいる。

【健全で安定した財政運営と財源の確保】

令和4年度については、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による市税の減等、歳入の減少が予想されることである。また、新型コロナウイルス感染症への機動的な対応に伴う財政需要など、収支の状況が見通せない中での財政運営を余儀なくされることが懸念されることから、将来に向けて健全で安定した財政運営を確保するため、引き続き徹底した歳出の見直しに取り組む必要がある。

一方、そのような中においても、市税等自主財源の割合を上げていくためには、限られた財源を必要な取り組みに重点的に投資することが重要である。将来に向けた投資を行うには、市の実質的な負担を抑制するため、単に一般財源に依存するのではなく、職員一人ひとりがこれまで以上に知恵を絞り、国等の補助金や交付税措置のある有利な地方債の活用積極的に努める必要がある。

【目指すべきまちづくりの実現に向けて】

令和4年度予算編成においては、コロナ禍後の社会への対応や地域経済の活性化に向けて、まちづくり基本構想における重点戦略を踏まえ、「アフターコロナの働き方を見据えた環境整備」、「地域経済を支えるまちづくり」、「誰もが住みやすさを実感するまちづくり」という政策テーマを設け、その実現に資する事業に対して、予算の重点化を図ることとする。

職員各位にあっては、一人ひとりが市政の担い手としての責任を自覚するとともに、「まち」と「ひと」がつながりを強めて力を結集する「域内連携」の考えを共有しながら、庁内のみならず、民間など幅広い関係者との連携による相乗効果を意識し、全ての予算において創意工夫に努め、厳しい状況下にあっても次の世代へこのまちのみらいを引き継いでいくことができる予算となるよう万全を期されたい。

2021年（令和3年）8月18日

釧路市長 蝦名大也